

とを比較する際に注意すべきことハ、多くの例外はあつたが大抵の組合が大戦中に爲したる組合員數に南する答申中には後軍して居る者を含むて取たことである。

後に掲げる表の第一のものに依ると、一九二〇年にハ大多數の種類の職業に於て其組合員が增加したことが解る。其内増加数の最大のものハ建築労働者(八〇〇〇〇)ハ其他の建築業(六〇〇〇〇)ハ炭礦業(八〇〇〇〇)ハ金屬機械製造、及造船(六〇〇〇〇)ハ一般労働(五〇〇〇〇)及公務員(四〇〇〇〇)であるが、増加率の最大のものハ建築労働者(八三パーセント)並に銀行業及び保險業(四八パーセント)である。  
中には組合員數の減少した職業もある。減少数の最も多いのは、裁縫業(二〇〇〇〇)及び雜(二〇〇〇〇)であるが減少率の最大のものハ雜(二五パーセント)リンネル及び黃麻(二二パーセント)及び裁

縫業(二二パーセント)である。

一九二〇年に女組合員の最も著しく増加したのハ製紙、印刷等(一〇〇〇〇)即ち一六パーセント)及び銀行業及び保險業(一五〇〇〇)即ち九八パーセント)である。又女組合員の減少の最も甚しかったのを衣服(一九〇〇〇)即ち一三パーセント)及び雜(九〇〇〇)即ち五二パーセント)である。  
次に掲ぐる表の第二は一九一六―一九二〇の各年末に於ける職業別組合員數の移動を示したものである。